新京日日新聞
夕刊
九月廿四日（日）
發行所 新京日日新聞社

軍令部長の發意で 兵力量の決定

文官の海相事務管理許さず

軍令部條令改正内容

（東京二十二日發國通）軍令部條令改正案内容は上奏御裁可の上發表されるが要點左の通りと觀られてゐる

一、兵力量の決定については用兵作戰の中心たる軍令部長が發意し、之を海相に移牒して國策遂行の基礎とする事を明記する

一、軍令部を陸軍の參謀本部と對等とし名稱も軍令本部と改稱する、之と同時に海軍大臣故障の場合にも文官の海相事務管理を許さぬことを不文律とする

軍令部條例 第二條改正

（東京廿三日發）海軍軍令部條令改正案は廿五、六日大角海相參内し御裁可を經て即日公布の手筈だが改正眼目第三條即ち

「海軍軍令部長は國防用兵に關し參劃し親裁の後之を海相に移す、但し戰時に當つて大本營を象ぬる場合には作戰に關する事は軍令部長之を傳達す」

とあるを一部改正し平戰兩時の軍令部長の統帥權限を擴大たものであり、右改正の結果同時に何等の疑義なからしめ昭和五年七月軍令軍制、兵力量決定に關する海軍大臣軍令部長の職務擔當の區分を一層明確にし統帥事項は軍令部長の發意により之を海相に諮り軍制事項に關しては海軍大臣の發意にて之を軍令部長に諮るに決定された、斯くてかのロンドン會議當時起つた統帥權問題再發の杞憂は一掃されると同時に軍事參議官會議との關係上海相は武官絕對任命となり文官説は自然消滅した

陸軍に關係なし

海相と會見後陸相語る

（東京廿三日發）荒木陸相は定例閣議後總理官邸で大角海相と會見し統帥權問題に關する條令改正に付き説明を聞き後軍縮對策や豫算に對する協調につき懇談し午後一時廿分會見を終つたが、陸相は語る

軍令部條令改正の主眼は長江筋の艦隊の行動や海軍大演習、海軍大學の問題等を軍令部に移管するにあるが陸軍ではすでに以前右事項は參謀本部に移管して居り關係はない

拓相から釋明

議會制度改革私案

新に會計年度七月制を提案

（東京廿二日發國通）議會改革を前閣議で永井拓相が提案の所各方面より反對があるので拓相は廿二日の定例閣議で左の釋明を爲した

前回閣議で議會改革の必要を述べ、其際説明の爲め議會制度改革方法の實例を引用したのを自分の意見として誤解されて居るが各閣僚には誤解なき樣願ひ度い、尚現行會計年度は四月より三月迄となつてゐるが歲入の時期や議會との關係を考慮して七月一日より六月末迄と變更するを適當とするとも提案したが法制局長官は研究すると答へた

實行不可能

大藏省で反對

（東京二十二日發國通）永井拓相の議會制度變更に伴ふ會計年度變更論に對し大藏省や法制局では左の點で反對してゐる

一、現行制度が不便といふのは三月末の豫算編成後直に翌年の新會計に移るため其間餘猶期間が無いためであるが、會計年度を七月一日とし議會々期を其儘にすれば豫算編成に取かゝる七、八月は同年豫算の實施情況を考慮に入れる餘猶がない

一、しかのみならず會計年度を變更せば之に關聯する永井提案は實行不能で一方から觀れば冬の議會解散を避け投票者の狩出しを容易にするためと一部では言つてゐる

需要期に入つた製紙

封印解除と操短緩和斷行

（東京廿三日發）製紙聯合會では愈々需要期に入り八、九月共印刷用紙、模造紙等の洋紙類は實越の狀態に在るので八月下旬以降二回に亙り八百萬封度の封印紙の解除を斷行したが引續き年内に封印紙殘額大部分も捌ける見透しがついたので、最高五割五分にも達して居る操短率を近く緩和することに内定右は主として輸出に振向けられるものであると

池田成彬氏

銀行常務辭任

（東京廿二日發）三井銀行筆頭常務たる池田成彬氏は二十二日突如辭任し、同時に手形交換所理事長をも辭任することとなり、三井銀行取締役たると共に三井合名の常任理事に推され今後は、三井合名の業務に專心することとなつた

辭任の理由については諸種の噂があるが、今回三井合名に於て常務理事一名を增員することとなつた結果だと云はれて居るが一般では池田氏が今日三井王國を代表する勢力者であり、五、一五事件等財閥に對する非難攻擊盛なるに鑑み之を緩和する手段と見て居る

廣田外相

トーキー講演

（東京廿三日發國通）非常時外交を擔つて起つた廣田新外相は二十二日午後秋の日に映える外務省裏庭の芝生で米國フオツクス、ムーヴ、トーキー會社のトーキーに納り左の如き演説をなした

アメリカ合衆國は經濟不況打開のため産業復興法により大掛りな對策を講じつゝあるが、これは誠に時機に適したもので日米兩國は兩國經濟關係の改善發展のため今後も手を握つて進み度い

棉花輸入高

十六萬餘俵の減少

（東京廿三日發國通）日本棉花同業會調査昨年九月より本年八月に至る棉花年度の棉花輸入高は三百七十三萬四千八百俵で前年同期に比し十六萬千俵の減少である、之を種類別に觀れば（單位千俵）

種類	輸入高	前年との比較
印棉	一、四九九	一八六增
米棉	一、六九三	八四三減
支那棉	二三一	二三增
エジプト棉	五一	九減

因に米棉の減少は前年買過ぎの反動で印棉の增加は割安さと不買見越に依るものである

滿洲國交通概觀（三）

關東軍交通監督部　大村卓一

日本は海洋の國にして又山嶽の國であるが、滿洲國は江山千里大陸の國である、日本が海水に惠まれて居ると同樣に滿洲は江水に富んでゐる、全國の河川を利用し灌漑航運を興す事は農業には旱害を除き更に交通に便ずるのみならず千里の曠野に景趣を加へて王道仁政の表徵を發揮するに至るであらう、此の意味に依つて南北滿洲の分水嶺をなす此處新京の近域に於ける松花遼河の兩水系の上流を締め切り琵琶湖に匹敵する湖澤を現へ之を南北兩方に落して滿洲の曠野に大に灌漑を實與し地を潤ぶして農民の稼業を豐ならしめ併せて水運の便を普及せしむる事は滿洲建國第一の意義ある事業として考慮せられて居る

滿洲の道路に就ては滿洲國政府國道局の主管の下に幹線道路は着々改修建設中である、是等の幹線道路工事の進捗に伴ひ滿洲國政府は近く自動車交通事業法を制定して自動車事業の健全なる發達を圖らんと努めて居る、現に從來交通不便を極めた熱河方面の如き道路の修築と自動車運輸の進出に依り其の方面の貨客輸送に劃期的進展を來して居るのである

現在滿洲國内の自動車數は大約五千臺位だと稱されて居るが之は其の廣さに於て約五分の一に充たない朝鮮半島のそれと略々同數である

自動車路線の延長も朝鮮が約一萬五千粁の長さを現在持つて居るに對し全滿洲内では未だ一萬粁に達しない現狀であるから今假りに朝鮮並に自動車網を普及するとすれば其の數に於ても路線の延長に於ても現在の五、六倍以上に達せしめなければならぬ、從つて今後自動車運輸業の促進を圖るは滿洲の交通行政上最も肝要なるものゝ一つであり又之に伴ひ自動車工業の確立を圖るは日本に取つて最も大切な當面の事業なのである

航空事業に就ては昨年九月、日滿合併の滿洲航空輸送株式會社成立以來國内航空事業は劃期的な進歩をなした、即ち定期航空線の延長は現在四千五百粁に達し日本内地に於ける航空定期路線東京より朝鮮を經て大連迄の路線を加算して僅かに二千數百粁であるから滿洲の現在航空路は其の二倍に及ぶ譯である

重要なる航空路としては新義州及び大連に於て日本空輸線の内地線に連絡し奉天を經て新京、ハルビン、チチハル、滿州里に延びたるものや又新京より間島龍井に結ぶものやハルビンより松花江沿岸の佳木斯富錦に達するもの或はチチハルより黑龍江岸の大黑河に延び並に錦州より熱河方面にも定期に飛行して居るのである

滿洲航空路は將來西北に進展せしめシベリア線（これはソヴエートの經營するものであろ）に連絡し、歐洲へ直通させ南部は北京天津南支面を結び更に中央アジアに連絡せしめ世界航空路の擴充に寄與するは滿洲の空運交通當然の使命である

滿洲の飛行機旅行は大陸の平衡氣象に幸ひせられて頗る安全平穩である、よく内地の方々から承るところであるが「飛行機に乘るなら滿洲で乘れ、搖れず安全だ」と内地で危んで居られた方が滿洲に來て初めて乘られると申す事も度々伺ふ事である

以上の如く滿洲國の交通機關は我忠勇なる陸海軍將兵の意氣に倣ひ其の建設開發に從事せる日滿同胞諸士の犧牲的努力により其の技能と精神力の結晶として陸に空に河に驚異的躍進を見せつゝ新興國建設の先驅となり基となりつゝある、茲に緒を結ぶに臨み之等建設事業に從事せられて居る人柱となつて斃れられたる方々に對し恭しく敬意を表し度い（完）

珠玉を碎く

禁無斷上映上演

吉井勇　（高根秀浩畫）

（百二六・三）

鋼光る（七）

「はゝゝゝゝ、顔面おやられ……」

たた」

大貫はさういつて笑つたが、その聲はまるで氷のやうに冷たかつた。と、兩側に並んで腰をかけてゐる囚人達の目が、みんな一時にぎよろりと光つて、それが一齊に莊太の顔に注がれたが、そこには一人も見知つてゐる顔がなかつた。

莊太は何か大貫に向つていひ返してやらうとしたが、何うしてだか唇がぴつたり糊付けにされたやうになつてゐて、何うしてもものをいふことが出來なかつた。彼は唯ぢつと大貫の薄笑ひの浮かんだ顔の邊りを睨み付けた。

夢のことで何時の間にそこまで運ばれて來たか判らなかつたが、間もなく莊太は監房の中で、冷たい床の中にはつてゐる自分の姿を見出さなければならなかつた。そこにはもう大貫も誰もゐなくつて、彼は唯一人で闇の中に呻いてゐるのだつたがそのうち何處からか微に聞えて來る悲しげな唄の聲が耳に留まつた。冷たい夜風に吹かれて來るその唄は、囚人の囚人が聲を合せて唄つてゐるやうにも思へたが、しかしよく聞いてゐると、何だか獄中の唄ではないやうにも思へた。幽鬼の曲といつた樣なもの凄しい哀調があつた。

夜でも、晝でも、
牢屋は暗い。
いつでも鬼めが、あゝ、あゝ
窓から覗く。
覗くとまゝよ。
獄は越されず。
自由に焦れても、あゝ、あゝ
鎖は切れぬ。

莊太は不圖その唄を聞いてゐるうちに、だんだんそれがゴルキイの『夜の宿』の中でうたはれる唄だといふことが判つて來た。

「あゝ、さうだ、邦樂座で自由劇場のあつた時に聞いた唄だつけ……」

莊太はさう思つてぢつと耳を澄まして聞いてゐたが、唄の聲がだんだん遠くなつて行つたかと思ふと、夢は剝がれるやうに覺めて行つた……。

まだあれからそんなに時間が經つてゐないと見えて、障子は春の月が明るく照つてゐた。びつしより寢汗をかいてゐるのを見ると、何だか氣味が惡かつたが、昨日からの疲勞で體がすつかりぐつたりしてしまつてゐて、身動きをするのも億うかつた。

「おい……おい……」

莊太がさういつて純子を呼ぶと丁度梯子段を上りかけてゐた純子は、すぐに返事をして彼の枕頭に近付いて來た。

「もうお目覺めになつたの。よくお眠みになれて……」

「よくなんぞ眠られるものか。厭な夢を見ちまつたよ」

と、莊太は少し緊餘な調子で返事をした。

「えゝ、厭な夢ですつて……。どんな夢……」

純子は心持眉を寄せて訊いた。

「うん、何さ……。おれが大貫なんかと一緒に牢獄に投り込まれたゆめさ」

「まあ……いやあね……。きつと今朝の刑事のことが頭にあつたのよ、そんな嫌な夢を御覽になつたんだわ」

「うん、多分さうだらうと思ふがお蔭で寢汗をびつしよりかいちまつたよ」

「ふきませうか……」

「まあ、いゝや。それよりも今日の新聞があつたらちよつと見たい」

「えゝ、それぢや階下へいつて借りて來ますわ」

純子はさういひながら立ち上がつた。

方、吉兩軍南下し停戰協定を蹂躙す

方軍千五百名が懷柔に侵入 關東軍嚴重抗議

（東京廿二日發國通）二十二日陸軍省に達せる情報によれば宋哲元に追はれ獨石巧方面に退却した方振武、吉鴻昌軍は湯玉麟、劉桂堂軍と相通じ反蔣の旗幟を掲げて反中央の軍を南進せしめつつあつたが、二十二日方軍の一部約千五百名內外は懷柔に侵入せるは確實となつた、これは明かに停戰協定の蹂躙であるから關東軍は二十二日その協定違反に對し嚴重抗議し即時撤退を要求すると共に之に應ぜざる場合は獨自の立場に於て行動すべきを通告し、確固たる決意と周到なる準備の下に深甚の注意を拂つてゐる

軍は公明正大

北支政局の安定切望

（北平二十二日發）方振武軍の懷柔附近に侵入したる事件につき北平武官は各方面と打合せの上左の如く決定、夫々處理する所あつた

日本軍部は停戰協定に基き支那軍不侵入區域內にかくの如き武裝團体の侵入を許さず故に

『該軍』に對しては速かに區域外退去を要求する、若し從はざる場合は軍獨自の立場にて斷乎たる處置に出ずるものである、又北支軍憲が停戰協定の線を越え軍隊を北上せしむる如きも前述の趣旨により誤解を招く虞あるを以て之を認容出來ず、支那新聞紙が日軍飛行機順義懷柔方面を偵察せりとて恰も方振武等の軍と何等かの關係あるかの如き記事を掲げてゐるが我を誣る事も甚しい、停戰協定地域內に於て斯の如き事態を發生したならば之を

『確認』するため飛行機その他の方法をもつて偵察を實施するは當然の權利である關東軍は再三再四聲明せる如く軍は公明率直正大であつて其の何れにも斷じて組するものではない、かくの如き內爭を繰返へさせるやう希望するは勿論北支政局不安定ならしむるは勿論排擊すべきで一日も速かに和平の訪れんことを切望して已まざる所である

不侵入區域の治安着々恢復

逆宣傳を外にして

（山海關廿三日發）日支停戰協定により設定された支那軍不侵入區域に對し支那側は支那正規軍を

『侵入』せんとしその口實として盛んに同地帶の匪賊化を宣傳しつつあり最近は玉田、豐潤兩縣に李耗子の匪團五千襲來し暴威を振ひ居るが如く傳へてゐるが事實は全然之と相反し李耗子匪團の勢力は三千に過ぎず、これとて既に消滅を前にして石門寨附近に辛ふじて餘喘を保つにすぎずその他灤縣、撫寧、樂亭附近に舊東北軍の成れの果てたる匪賊が五、六名一團となつて各所に出沒しゐるのみでこれ等は

『保安』警察總司令李際春氏の手によつて徐々に討伐されつゝあり全般的に見て同地方の治安狀態は至つて平穩である

檢察官上告權拋棄

（東京廿日發）五、一五事件陸軍側判決につき匂坂檢察官は判決後公判記錄を檢討して居たが上告期間滿了の今日まで法律違反なきを確認し上告權を拋棄したので、一審服罪を申出でた被告の上告權拋棄と共に同判決は法律的效果を生ずる事となつた

聯盟理事會

日本側の出席なく開會

（ジユネーブ廿二日發電通）第七十六回聯盟理事會は二十二日午前十時四十分よりノールウエー代表モーインケル氏を議長として非公開を以つて開會された、脫退通告まで常任理事國として

『活躍』した日本代表席が空席となり只數名の書記官のみ其後方に着席して議事を傍聽して居るのが支那代表顧維鈞の出席と對比して一沫の淋しさを漂はしてゐる

お會議に於ては聯盟の行政並に豫算問題が討議されたが三十分にして終り、直ちに公開會議に移つた、日本の理事會の討議々題は左の如くである

一、國際建築業者委員會創設問題

一、學藝協力問題

一、阿片諮問委員會重要報告

席上支那代表顧維鈞は各國政府をして麻藥製造販賣制限條約に

『參加』せしむることを促進する方式を提議した、斯くて當日の公開會議は僅か四十五分にして終り、廿三日午前十時半より再會することとし十一時五十五分散會した

國際聯盟總會廿五日に開く

支那代表なほこりずに 新決議案提出か

（パリ廿一日發電通）廿五日より開會される聯盟總會に支那代表は日支紛爭に關する新決議案を提出して採決を求め、二月廿四日の總會勸告の趣旨を徹底させんとする形勢であるが、小武代表は聯盟が日支問題處理に不適當なるを感じて居り、新決議案の採決に成功しまいと觀られる

菱刈軍司令官

（奉天廿三日發電通）菱刈司令官は關東廳事務檢閱のため二十二日午後一時四十分「はと」にて奉天通過旅順に向つたが驛頭には井上守備隊司令官、臧奉天省長を始め多數の日滿官民出迎へたが軍司令官は停車時間中プラツトフオームに降り出迎への人々に一々答禮したが今回の赴旅について聞けば左の如く語る

今回の赴旅は關東長官として事務檢閱に赴くのだが十日程旅順に居る豫定だ

鄭總理秋の吉林へ ―きのふ新京驛で―

北鐵第五次交涉

ソ聯の不誠意で依然その儘

唯だ換算率不當を鳴らし 研究の上更に會合

（東京廿二日發）北鐵交涉第五次中間交涉は二十二日午前十時より開會先づカズロフスキー氏より滿洲國の主張する五千萬圓には何等の根底無く然も舊ルーブル紙幣の換算率たる二十五錢とは

『單に』おに符合せんとするに過ぎざるトリツクであるが故に貴國側では充分事務的に研究調査の上新たなものを出されんことを希望する、と當然豫期されたソ聯側換算率をも提示せず滿洲國に對して讓歩を迫る態度に出たので大橋次長は之に對し二十五錢案はこれまで屢々述べた如く根據ある額で、今日ソ聯に通用するルーブル換算率は一錢五厘乃至五錢であるが、之を本交涉の基準とするには餘りに酷いから政治的に引上げ五千萬圓に該當する二十五錢にしたのであると反駁し

『若し』ソ聯側がこれに應ずるにおては滿洲國は前回の約束に基き北鐵に附帶する其他の條件につき審議する用意ありと述べソ聯側が誠意を示すべきことを力說したがカズロフスキー氏は唯五千萬圓の要求さなる換算率の不當を鳴らすのみで進展の跡を示さず後日研究の上更に會合することとして午後二時半散會した

換算率提示を外相から慫慂

泣きつくユ大使に

（東京廿三日發國通）廿一日午後外務省に廣田外相を訪問して北鐵問題に關し懇談、滿ソ間の斡旋方を要望する處あつたロシア

『大使』ユレネフ氏は廿二日午後二時四十分重ねて外務省に外相を訪問し依然として行詰りに當面してゐる北鐵交涉促進方に就き斡旋方を依賴したので、外相は北鐵交涉の圓滿なる解決は我方の希望する所なるも、未だ滿蘇雙方に於て交涉の基礎たるべき換算率問題其他の條件に關して當事者間の具體的意向さへ判明してゐない情況であつて、具體的數字問題に關して兩者主張の限界が判明せざる限り、日本から今

『積極』的に手を打つと云ふ譯にも行かず相互に焦慮することなく今少し具體的事項に就いて話合ひを進めらるべきことが先決問題の樣に思ふとし暗にロシア側が換算率を提示すべきことを慫慂した

米國が極東外交に露骨きわまる現れ

=ソ聯側と秘密協定の內容=

成行極めて重大

ルウズベルト大統領のソ聯承認策が表面化し各方面に注目されてゐる折柄、新京某所に着したる情報には既に兩國間に秘密協定が締結されたを報じセンセイションを捲起して居るが、該秘密協定は大体に於て米國の極東外交の露骨なる現はれで日露紛爭を豫測しこの間に乘じ極東に一大進出を企てんとする腹の下に作製されたもので米國側に非常に有利に提結されてゐる、即ちこれにより米國は普通商品機械、武器、化學兵器等の破格提供をなし、その代償として獲得せんとする利權は

一、極東及シベリヤに於ける金鑛、並炭坑の採掘權

二、米商品に對しソ聯へ輸入の際各種の特權を授與する事

三、米ソ兩國經濟的關係を更に親密にする爲ソ聯の米商品注文は總て米國に派遣せる商事專門委員の手を經て行ふ事

等であつて米國が日本の大陸政策に一大鐵槌を下さんとするものゝ如く、東洋に於ける日ソの親善關係を破壞せしめ其の間に乘じ甘い汁を吸はんとしてゐる事が判明するに至つた

滿洲を恒久警備に來る十年から實施

兵力よりも裝備改善が主眼

陸軍の方針決る

（東京廿三日發國通）陸軍では滿洲國も昭和九年度は平常に復歸する見込がついたので昭和十年より全陸軍の恒久警備に移す根本方針を決定したが、陸軍首腦部の方針左の如し

一、今後の國際情勢に對しても、現兵力で差支へぬから裝備改善に主力を置き、兵力は關東軍との關連を部分補足に止む

一、裝備改善には新兵器の增配と新銳部隊の增設制度更新で軍の近代化を完成する

一、然る後兵力增加に着手し大單位（師團）の增加を爲さず小單位（中隊）の增加を圖る

產業視察團着京

平田○園は駐屯區域たる奉天省興城縣、綏中縣、熱河省灤南縣、青龍縣及び山海關の產業並に文化發展に資するため官吏、警察官、敎員、自警團員、商人學生等各階級からなる代表者三十六名をもつて產業視察團を組織し、中に紅一點とも言ふべき自發の婦人代表を交へ、宣傳班長筒井大尉引率の下に去る二十日山海關を出發、途中奉天、撫順を視察し二十三日午前八時新京に到着、直ちに協和會本部の案內で執政府はじめ各官廳、中央銀行等を見學、張實業總長及び丁交通總長から滿洲國の產業に關する講演を受けた、尙一行は二十四日午前關東軍司令部を訪問、挨拶を述べた後市內を見物、午後四時半發列車で大連に向ふ筈

北滿岩鹽視察

（大連廿三日發國通）二十四日行はれる關東廳鹽田開業式に列席の爲九大名譽敎授四川虎吉氏は二十二日「うすりい丸」で來滿したが右終了後關東州の鹽田及び北滿の岩鹽產出地方を視察の筈

非難高まる郵便物不足稅

支那側に抗議せん

（天津二十三日發）關東州內並びに滿鐵沿線より發送される郵便物に對し支那側郵便局は勝手に不足稅を徵收、全支那居留民間に非難の聲が高まりつゝある、尙は當局も右に對し既に支那側當局に警告を發するところあつたが、事實は何等改正せず依然として居留民は引續き不當な處置を甘受しつゝある狀態で、これに對し當地居留民間では何等かの方策をたて自衞的手段に出すべくとの要望が高まつて居り一方總領事館側でも之を我が政府對南京政府の交涉に移すべし其の實狀調査を急ぎつゝある模樣である、總領事館では居留民に右の如き證據物件となるべき郵便物等の提出を求めてゐる

金本位採用の積極理由無し

滿洲視察から歸つた青木部長談

（東京廿三日發）先月末渡滿し二十二日歸京した大藏省のに見る滿洲の金融情勢を視察青木外國爲替管理部長は左の如く語つた

滿洲の幣制は國幣が段々信用を高めて成功を收めつゝある、近頃滿洲國に爲替管理法を布くなどゝ傳へられるが全く浮說である爲替取引は未だ少なく、其必要はない、滿洲國に金本位制を採用せよと主張する人があるやうだが現在金本位制を採用する積極的理由もなく當分銀本位に決定してゐる

北海道海產物滿洲國進出に

商船直航航路創設

（大阪廿三日發國通）最近北海道方面より滿洲へ海產物の販路拓け、逐日進展を見てゐるので大阪商船會社は今回根室、大連間に直航航路を開始することを二十三日發表した航路は往航は根室、釧路、室蘭、函館、橫濱、阪神、門司、大連復航は裏日本を廻り北海道に直航、差當り五千噸級の貨物船を就航させ第一船は十月一日八雲丸が發航の豫定である

手荷物取扱所擴張近く實現

旅客には大變便利

既報、新京驛手小荷物取扱所では擴張工事を行ふ手筈になつてゐたが、同所前安全道路工事の手遲れのため豫定が變更して

『實は』今頃は工事に着手してゐたはずを少しく延期して近日中にいよいよ該工事にとり掛るはずになつてゐる、この工事の着手と同時に當驛到着手小荷物は向ひ側三等待合室東溜で手小荷物の引渡をなす樣變更され、工事は一ケ月の豫定で遲くとも十月一杯には完成し、完成の曉には事務所は勿論客溜、荷積所が廣くなり從來人工增加に比例して狹隘混雜を感じてゐたのも

『自然』消滅さなるわけだし其の上旅客は列車より下車して直ぐホームから手小荷物取扱所北側へ行きそこで受け取つた荷物はそのまゝ南側へ持ち運び、この度新設される南側出口へ出て安全道路の處で直ぐ馬車に乘れるて歸く旅客は便利になるものである

天津市長就任

（天津廿三日發國通）天津市長に推薦され中央の認可を申請中であつた現市政府參助王韜は既に行政院の決議を經て正式に任命の發令を見るに至つたが愈々來る十月一日より正式市長に就任する事になつたと傳へられる

ガウス氏來連

（大連二十三日發國通）天津駐在アメリカ總領事ガウス氏は二十二日「うすりい丸」で來連、一兩日中に赴任の豫定

人事往來

▲鄭國務總理 二十三日午前八時三十分吉林へ

▲伊藤關東軍々醫部長 二十三日午前九時發奉天へ

▲袁慶廉氏（濱江稅務監督署長）同上

團体

▲新京青年訓練所生四十名二十五日午後十時發鞍山へ

▲東京府立園藝學生六十名二十三日午後三時二十五分歸京二十四日午後〇時四十分發公主嶺へ

▲福岡縣筑紫中學百七十四名二十六日午前六時四十分着午後〇時四十分發南行豫定

▲朝鮮警官團五十三名二十四日午前六時四十分發哈市へ二十六日午後三時二十五分歸京午後四時三十分發吉林へ二十七日午後四時歸京午後四時三十分發奉天行豫定

▲キリンビール團十一名二十四日午後〇時四十分發奉天へ

▲栃木市町村團十九名二十五日午後三時二十五分着、旭ホテル投宿二十六日午後四時三十分發奉天へ

▲石川縣敎育團十九名二十四日午前八時四十分發哈市へ二十六日午後三時二十五分歸京二十七日午前八時三十分發吉林へ午後九時歸京十時發大連へ

▲大日本女子青年團二十名二十四日新京帶在松屋投宿二十五日午前八時三十分發吉林へ午後九時歸京二十六日午前九時五十分發大連行

▲新潟實業團六名二十四日午後三時二十五分哈市より歸京國際旅館投宿二十六日午前八時三十一分吉林行の予定

新京を荒し廻つた覆面の三人組强盗

新京署必死の努力で捕はる

意外 犯人は日本人

王道樂土を謳歌しつゝある市民の安らかなる夢いまださめやらぬ拂曉、覆面黑頭巾の扮裝物凄く懐中に忍ばす短刀に一層の凄味をそへ通り魔の如く市内各所に出沒良民の夢路を破つて家人を縛ぎ猿ぐつわの常套手段によつて周到に電線を切斷し金品の强奪をほしいまゝにし、市民を恐怖と戰慄のドン底に陥しいれた三人組の强盗犯人は新京署員の必死の活動によつて二十二日遂に逮捕された

去る八月十八日以來瀕々として起る强盗事件に躍起となつた新京署司法係では心血をそゝいで大々的捜索を續行してゐたが

＝犯行＝ 當時の模樣被害者の調査の結果言語同作等の推察により犯人は日鮮人であるとの疑を濃厚にした同係では倉主任の指揮の下に直に捜索方針を轉向以來刑事連は晝夜の別なく文字通不眠不休の活動を行つてゐたが、谷口刑事は去る七月不良分子の潜入一掃の爲に不浪者狩を行つた際西公園にて檢擧した邦人三名に疑ひの一矢を投げかけ、直に素行調査を

＝開始＝ した處ルンペンに似合ぬ金錢を亂費してゐる事實を突止めたので勇躍してなほも調査を續けた結果、市内永樂町三丁目朝鮮素人下宿日滿洋行に怪しい三邦人が止宿してゐる事を探知、二十二日午後七時三十分頃原田、池水、金各刑事の應援を得遂に逮捕するに至つたものである右犯人は原籍高知縣幡多郡上灘村山崎幸吉(二五)同坂谷春量(二〇)及

＝福島＝ 縣伊達郡梁川町石塚悟一(二五)で主犯の石塚は去る七月大阪大連を經て來京、山崎坂谷は前記原籍地在住時代より友人で共に七月三日職を求めて來京したもので山崎と石塚は七月の不浪者狩の際檢擧され五日間の拘留に處せられた折警察署で知合つたもので年少者の阪谷は本年幹部候補生として入營すべき

＝大切＝ な身であるなほ彼等が犯した强盗事件は次の如くである

▲八月十八日午前三時頃浪速通二丁目賀屋主成棟方に侵入五百二十圓を强奪

▲八月廿八日午前三時頃富士町四丁目賀屋李俊傑方に侵入金四百圓を强奪

▲九月二日午前三時頃曙町四丁目雜貨商張雲普方より金六十圓を强奪

▲九月十四日午前四時頃祝町四丁目兩替房許夢卿方より二百六十五圓を强奪

なほ物品は全部入質强奪金と共に分配してゐた

（寫眞）前列右より犯人石塚、山崎、坂谷 後列左より河本警部補、殊勳の谷口刑事、倉田司法主任、原田刑事、金刑事

人間の起死回生は絶對に可能

たゞ外科醫の技術のみ ソ聯醫學教授發表

（ハルビン廿三日發）ソ聯醫學界の泰斗テオドル、アンドレイ教授は人間の起死回生は絶對的に可能だと稱して學界に一大センセイションを捲起してゐるが、同教授は

この原理は極めて成功的に論證されてゐるが、唯殘された問題は我々の實驗の結果を實地に應用する外科醫の技術の發達如何にかゝつてゐる。と稱してゐる亦多年同問題に就き研究を重ねてゐるソ聯のアレクサンドルクリヤブコ教授は、若し心臓肺臓其他の重要内臓機關がその構幽的配置を損ねずに居れば近き將來において死体を回生せしむる事も可能であらうと稱してゐる

競馬は大賑ひ

お休み續きで

新京賽馬倶樂部秋季賽馬大會は二十三日休日のため黒山の樣な人出となり、入場者二千人と謂はれてゐるが搖彩票の賣行きもよく、一回に七百八十圓。一等の配當金四萬圓で當選者は國幣の、一圓札束を抱いて自動車で歸る号破れる樣な人氣で、殊に馬券は競馬ファンが多いためレース毎に五百枚位宛賣れ、觀客席上り口の大階段が人の重みで大音響と共に墜ちる等の茶番さへあつて、頗る盛會であつたが二十四日も朝來の好天で續々入場者繰り込み、番狂はせ續出して人氣は彌が上にも擧つた

兵士の母達が

各地を慰問旅行に

在戸または來住する軍隊慰問に設けられた新京兵士ホームは皇軍將士から多大の感謝を受けつゝあるが更に一歩を追行前線にある將兵慰問の爲新京兵士ホーム主任赤木夫人、濱田婦人は同伴二名をつれ二十三日午後四時半發列車で奉天に赴ひた、なほ熱河方面より洮昂線からチヽハルをめぐり各所に散在する皇軍を慰問するはず（寫眞上は出發の四婦人）

熱河省に童子團生る

第二回滿洲國童子團指導者講習所に五名の講習生を送つた熱河省教育廳では益々之が運動に力を入れるきに少[illegible]團としてあつた同團を滿洲國童子團と改め九月廿日承德離宮に於て少年團日本聯盟理事三島通陽氏の來承を機とし結團式を行つた（寫眞下は承德離宮前の同團）

危險・自動車

小兒を轢殺す

きのふ中央通りで遊戯中に

獨り息子を失つて悲歎に暮る兩親

最近頻々と起る交通事故殊に自動車による慘禍に市民は尠からぬ恐怖を受けつゝある矢先、又もや警察の自動車の小兒轢殺の悲慘事が勃發した二十三日午後五時少し前中央通り十五番地石井亥之吉氏の長男昭二(七才)さんが

＝自宅＝ 向側に積まれある建築材料の傍で數名の友達と遊び戯れてゐる處へ大きな犬が來たのを避けやうとする刹那驛方面から疾走して來た自動車が激突し刎ね飛ばした上に轢いてしまつた、車上にあつた人も驚いて飛び下り、急を聞いて馳けつけた昭二さんの兩親もその自動車に虫の息の昭二さんを載せ滿鐵病院に走つたが祭日で醫員は居らず醫院門前の中市醫師の手當を受けやうとしたが既に其時は絶命手當の施しやうがなかつた

＝全身＝ 數ケ所負傷死因は後頭部の强打で腦振盪と内出血と診斷された、轢いた自動車は運轉手鮮人康が操縦して居たが、此日その車は佐賀縣教育視察團の市中見物に提供されたの三台中の一台で一行が分乘して居たものであるが目撃者の語る處に依れば他の二台より遙かに前方を疾走してゐたといふから規定以上のスピードを出しこの慘禍を惹起したものらしい、如何にその激しいショックであつたかは自動車のヘッドライトの

＝硝子＝ が粉微塵に碎けてゐるに徴しても知れる、昭二さんは石井氏の男の一粒種で眼の中に入れても痛くないやうに愛育してゐたのにこの兇變に遭ひ兩親の悲嘆はまつたく目もあてられぬものがあつた、因に佐賀縣教育視察團は新京佐賀縣人會員とともにこの慘禍を恐縮し石井氏を弔問した

石井氏の不幸

新京中央通一五石井亥之吉氏長男昭二（七才）さんは二十三日夕刻自動車に轢殺され、二十四日午後四時半曙町長春寺で葬儀が執行された

若人盛に跳躍

一競技毎に息詰まる激戰

滿洲國の体育大會

滿洲國体育協會新京支部体育大會は、二十三日から開催され、二十四日も午前九時から引き續き擧行され小春日和の日曜のことゝて觀衆多く拍手の嵐に包まれつゝ一競技毎に息づまる樣な演戰の裡に回を追つて進んだ

△陸上競技 西公園グラウンドに於て午前九時から開催されたが、午前中における決勝優勝者は左の如し

△走巾跳 一等 平川 五米七三 二等 川野 三等 季

同午後引續き各種目の決勝を行つた

△庭球（硬球）滿鐵コートに於て二十三日より引き續き擧行單式、複式共リーグ戰を行ひ、選手を決定した

△同（軟式）新京高女コートに於て午前九時より擧行リーグ戰を行つたが、諏訪、矢口、高辻、濱田の女子選手は、會場に紅數點を加へて盛會であつた

△籃球 新京高女グラウンドに於て擧行リーグ戰を行つた

△排球 二十四日午後一時から吉黒樺運署に於て擧行、吉長對第二師範、新聯隊對中央警察で非常な接戰を演じた

大同報社

改組披露宴

大同報改組披露宴は二十三日午後六時から賓宴樓で開催に滿各界の人々百五十餘名招待され開宴計長王光烈氏の挨拶と副社長部甲文雄の紹介があり之に對し來賓を代表して金特別市長謝辭を述べ寛いで歡談八時頃盛會裏に散會した

五、一五事件

民間被告公判

二十六日開廷する

（東京二十三日發）五、一五事件民間側被告公判は二十六日開廷と決定した、東京地方裁判所神垣裁判長係りで愛郷塾頭橘孝三郎を筆頭として審理を開始する、場合によつては幇助罪の大川周明、本間憲一郎、頭山秀三は分離審理する、橘は農村問題の蘊蓄を傾倒すると観られ注目されてゐる

佛汽船日本進出

（パリ廿一日發國通）佛國エム、エム汽船では今回日本市場進出を企圖し上海止りの東洋航路を十二月より神戸まで延長に決定した

受取人ない鐵道荷物

整理に手古摺る

まさか自分の持ち込んだ荷物を忘れたのではあるまいが、驛到着の手荷物の受取り人のないのが未だに多くて新京驛手荷物係では普通でさへ荷物の多くて困つてゐるのにこれ等受取人不明の荷物の整理に手古摺つてゐる、これは受取人住所氏名判明してゐても驛からは別に通知せないのが原則で驛到着後二ケ月經過してもなほ受取人のない場合は換價處分に附して保管料（一日十錢、二ケ月六圓）を差引き殘りは驛に徴收するも換價しても保管料六圓に滿たない荷物は途中何時にても驛で換價處分に附されるものである

東部線列車襲撃はロシア側匪賊

滿洲國近く抗議せん

（ハルビン廿二日發國通）匪賊の北鐵東部線列車襲撃に對し滿洲側で調査の結果、右はロシア側匪賊によること判明したので滿洲國は確證を擧げてソ聯政府に近く嚴重抗議する筈である

熊本師團凱旋

先發部隊大連に着く

（大連廿三日發）昨年十二月十七日渡滿以來熱河實戰、濼東線鐵道警備等幾多聖戰に皇軍の武威を發揚して赫々たる戰功を擧つた第六師團の

＝先發＝ 凱旋部隊松田〇團長以下第〇〇隊は二十三日午前九時半ホームから驛前廣場一杯に埋めた一般見送人、各種團體の熱狂的大歡呼裡に特別仕立ての臨時列車で着連した、軍旗を先頭に驛前廣場に設けられた歡迎場に諸兵整然と整列を終れば、岡野市長代理は市民を代表して凱旋の祝辭と歡迎の挨拶を述べ、松田〇團長之に對し感謝の辭を述べ、次いで岡野氏發聲で萬歲三唱し編成順序に從ひ沿道堵列の市民の歡呼に答へつゝ行進ラッパに

＝足並＝ 揃へ歩武堂々宿舍滿鐵東倉庫に入つた向は晝は九ケ月振りで戰塵を洗ひ部隊は市中の團隊見物に過した

全く尊い體驗

松田將軍莞爾語る

（大連二十三日發）晴れの凱旋する松田〇團長を途中迄出迎へ祝詞を呈すれば美髯の將軍は莞爾と打笑みつゝ晴れやかに語る

やア、わざ〳〵出迎へてくれたのか、御苦勞、不肖乍ら

＝大過＝ なく將兵一同元氣で愈々凱旋だ、征戰の感想か？二月二十三日行動を開始した赤峰への大進軍は終生忘れ得ぬ尊い體驗だつた、戰鬪で一番の激戰は第二の冷口戰だ、幾多の戰闘で多數の犠牲者を出したが目的を達したことは欣快に堪えぬ

さて折柄到着した金州驛頭で在住邦人に答へた後遙かに見ゆる南山を眺めて靜かな調子で

日露の役は自分が少尉任官の時だ、任官早々補充兵を引連れて鐵道沿線を開原まで歩いた、横の

＝南山＝ も今は大分山姿が變つた樣だが兹も行軍して行つたものだ

と將軍は語り」過去の追憶も新しく、動き出した車窓から感慨深く南山を見送つた

女雲月出演

廿五日から

長春座は二十五日から二日間天中軒雲月の愛弟子雲月嬢の一行が開演する、新京は初お目見得であるが、女雲月として出藍の譽は世に喧傳されてゐるところ因に出演者と讀物は

大石妻子別月丸、梅ケ枝貞女錄雲英、南天林月路、義士討入貞月、電雷と八角吉右衛門、越後傳吉殘月、乃木將軍と孝子辻占雲月嬢、文七元結餘興歌番

小松兼松氏

地方委員選擧 出馬斷念か

地方委員候補として傳へられてゐた小松兼松氏は氏個人の事情により出馬を斷念した模樣で氏自身各方面に聲明した

佐藤氏來社

來る新京地方委員選擧に出馬した新町二丁目一九佐藤宇治太郎氏は二十四日立候補の挨拶のため來社

街の灯

新京カフエー組合では二十三日午後一時より[illegible]カフエーに於て組合總會を開き女給のエプロン問題に付愼重協議を重ねた

▲…その結果結局女給湯志に從ふ事に一決、一兩日中に各カフエーにてエプロンをかけるか否かに付投票を多數決によつて何れかに決定する模樣である

慶安異聞 艶魔地獄

（講談上演映畫化）玉水三郎
（畫）長谷川小信

（四十六）

蠣殻對面（六）

何者か立聞きをしてゐると、三人が氣づいた時、ガラリと障子が開いて、ズイと入つて來た者がある。それは昨夜からの流連け客、當時有名な劍客久米の平内であつた。

小石川白山に道場を構へ、大名旗本の子弟に劍道を敎へて、飛ぶ鳥も落ちる勢ひの平内は、一夜友人と共に三浦屋へ登樓し、此大淀を見たが、普通の遊女とは全然變つた所があつて、手腕も見事であり、起居振舞もしとやかなので、扨は武家出と睨んでからは、平内屢々大淀の許で遊ぶ様になつた。

今朝は雪道が惡いと いふを幸ひ、朝酒を呷つてゐたが、やりてから聞くと、若い男が四つ五つの男の子を背負つて、大淀に會ひに來たとのこと、不審に思つて所謂廊下とんび、ブラ／＼其部屋の前へ來て、立聞きするともなく三人の話を耳にしたので、

「コレ大淀、そちは普通の遊女とけ思はなんだが、今の話で悉く判つた。ア、氣の毒な身の上、コレ三平殿、それなる一子は高坂平内の孫であるか、今日より此久米の平内、高坂一家の味方となつて進ぜやう」

と、聞いて大淀の喜びは一方ならず、

「お恥かしい身の上が判りまして、何と申上げる言葉もございませんが、どうぞ此上は貴方の力になつて下さいまし」

「可しツ、青山主膳の邸内の事、又公用人相川忠太夫の事。緻に吟味したる上、愈々お菊を殺害したるものと定まれば、旗本も公用人もあるものか、此平内が助太刀して、それなる一子十松に復讐させて呉りよう」

「ハヽツ有難う存じまする。それで此小島三平は、百萬の味方を得たる心地が致しまする」

平内は何事か考へてゐたが、

「大淀、茲に一策がある。そちでなければ、此策は行へぬ」

「ハイ、どのやうな事でも、先生の仰せの通り致します」

「耳を貸せ」

何事か平内が大淀に囁いた。大淀から三平に取次ぐ、三平は三芳屋のお樂に囁ぐ。皆手を打つて妙案と喜んだ。

平内は大きく笑つて、

「それはそれで可しとして、三平殿や十松の身の上だ。若し青山主膳がそれと知つたら、謀叛人の片破れと名を附け、父子を召捕るまいものでもない。根岸邊りに居つては危ない／＼。今日是より白山の邸へ參れ、身共の道場には常に十人、二十人の猛者は居る。誰が何と言つて參つても、腕づくで父子を召捕せる事はせん」

「ヘツ、何から何まで有難い仰せ、何卒御厄介を願ひまする」

「では早速大淀は申附けた通りに致すが可い……さア杯盤を改めて此廓に於て酒宴と致さう。三平殿は酒は何うだ」

「至つて無調法でございまして、一滴も頂戴出來ません」

「ヤレ／＼それは殘念……オ、其名代には三芳屋のお樂。さア對手を申附けたぞ」

豪放磊落な劍客、大胡座をかいて、是から賑やかな酒宴となる。

大淀は次の間を閉て切り、何か頻りに文を書く。

其日の夕方、久米の平内は三平父子を伴つて、小石川の道場へ歸つて行つた。

大淀はお樂に使ひ屋を呼びにやつた。

「花魁もう大丈夫ですよ。多分今夜か明日の晩で判りませうから、マアそれまでが樂しみです」

「お内儀さん、私やもう一刻も早く知りたいので、出來る事なら使ひ屋より、自分が飛んで行きたい思ひです」

何事か秘密に囁り合つた後、文は使ひ屋に持たせて、何れへか出してやつた。

九月二十五日（舊八月六日）月曜　甲午　先勝　收　心宿

●一白の人　目上の引立ありて無事なる日焦るは利無し　乙と亥と寅が吉
●二黑の人　萬事に活氣を加へ勞せずして功多き大吉日　甲と乙と壬が吉
●三碧の人　割合に功果揚らざるも努力せざれば更に凶　亥と癸と寅が吉
●四綠の人　運勢潑剌として計畫を達成すべき大吉の日　巳と亥と寅が吉
●五黃の人　一利一害は免れざるが如し殊に誘惑を防げ　卯と庚と壬が吉
●六白の人　濃霧に遇ひたる大海の舟の如し急進を戒む　申と戌と丑が吉
●七赤の人　前後を顧みず妄進して不利を招く注意の日　甲と亥と癸が吉
●八白の人　折角の船出も半途にて逆浪に遭ひ難航の日　乙と壬と癸が吉
●九紫の人　迷ひを去りて定業を勵めば諸事通達すべし　巳と丙と庚が吉